

パリ協定実現のカギを握るのは、
企業や自治体といったプレイヤーたちの
率先行動と、それを支える低炭素技術である。

第3回

積水ハウス(株) (前編)

積水ハウス(株) 常務執行役員 環境推進部長 兼 温暖化防止研究所長 石田 建一氏

聞き手 WWFジャパン 気候変動・エネルギープロジェクトリーダー 小西 雅子

住宅メーカーの意志と挑戦 戸建て住宅のZEH化推進へ

パリ協定に提出を求められている2050年に向けた長期的な削減計画において、日本が掲げる2050年80%温室効果ガスを削減するため、住宅メーカーには、ネット・ゼロ・エネルギーハウス (ZEH) をはじめとする脱炭素型の住まいへの転換が期待される。省エネ部材や機器の商機でもある住宅。業界初のエコファースト企業として地球環境保全の取り組みをリードする積水ハウスの事業戦略に迫る。

2008年に日本初の脱炭素を宣言

小西 住宅産業を牽引される貴社では、やはり戸建て住宅事業が柱なのですか。

石田 弊社は1960年の創業以来、住まいに特化した事業を展開してきました。戸建住宅を出発点に、現在は賃貸や分譲住宅、マンション、リフォーム、不動産、都市再開発、国際事業など、事業領域を拡大しています。「SLOW & SMART」のブランドビジョンのもと、各事業の技術・ノウハウ・実績を生かして、暮らしに新たな価値を提供し続けることが弊社の役割であり使命です。

小西 環境への取り組みを地道に進めてこられたという印象があります。

石田 1999年に環境を経営の基盤とする「環境未来計画」をまとめました。それまでの環境負荷への反省とともに、将来を見据えた継続的な取り組みを重視してのことです。京都議定書が発効した2005年に1990

年比6%削減をめざす「サステナブル宣言」を、そして2008年には、2050年までに住まいのライフサイクルをゼロにする脱炭素の「2050年ビジョン」を、おそらく日本一早く宣言しています。2008年の北海道・洞爺湖サミットでは、最先端エネルギー・環境技術を集結した近未来型住宅として経済産業省などが展示した「ゼロエミッションハウス」の建設に協力するなど、住宅メーカーとして何ができるかを広く世界に示しました。

小西 持続可能性を経営の基軸に据えていらっしゃるのですか。

石田 はい。洞爺湖サミットを前に、環境省が各業界で最も環境に優しい企業と認定する「エコ・ファースト企業」に認定されました。エコ・ファースト企業は、環境大臣に対し環境の取り組みと目標を約束しますが、当社は生活時および生産時のCO₂排出削減をはじめ、生態系ネットワークの復活、資源循環の取り組みなど、積極的・徹底的な取り組みとその進捗の公表をしていくことを約束しました。現在もその過程にあります。

例えば廃棄物処理では、生産や施工、リフォーム時のゼロエミ化からグループ全体へのゼロエミ化へと進化を遂げています。新築現場では27分類、さらに工場では80分類し、QRコードを使って邸別、廃棄物の種類別に処理される先端のシステムを導入しています。新築の90%、既存住宅の70%のマテリアルリサイクルが目標です。

住宅は幸せの礎

小西 日本が世界に示した2030年の約束草案では、家庭・業務部門からおよそ4割の排出削減を目標にしています。列挙された対策には、新築住宅における省エネ基準適合の推進や既存住宅の断熱改修の推進など、「住まい」に関するものが目立ちます。

石田 パリ協定の採択を受け、今後、目標達成への多角的な取り組みが国内外で加速することは間違いありません。日本はGDPのおよそ3割を第2次産業で占める工業国です。2050年に80%削減を実現するには、産業部門以外でのCO₂を大幅に削減する必要がありますと考えました。そこで住宅メーカーとして弊社は、家庭部門からのCO₂排出量をゼロにすることを目標としているのです。

小西 2008年の段階で排出ゼロの将来ビジョンを設定されたのはとても勇気のある決断だと思います。

石田 住宅はお客様に販売してからのお付き合いが長い商品です。弊社が手がけた住宅は全国に約233万戸ありますが、これらを長期にわたってサポートしていく弊社の責任も長く続きます。それには命を育んでいる地球環境がきちんと成り立っていないわけにはいきません。2050年の長期ビジョンは、世の中で私たちが役に立つ企業でありたいという意志の表れでもあります。

自身の話で恐縮ですが18年前に建てた私の自宅は、当時としては珍しい真空トリプル断熱ガラスなどを取り入れることで快適な室内環境を実現しています。結核を患い肺の弱かった父は毎年風邪を引くと肺炎で入院していましたが、以後、風邪をほとんど引かなくなりました。環境に配慮した住宅は健康に良いのです。

快適な暮らしと健康な生活を実現することが住宅の役割です。より快適な暮らしをしながら地球環境にやさしい暮らしです。単なるハードではなく、憩いの空間と幸せな人生の礎を売っているのだと思っています。

小西 断熱化と省エネ化を進め、消費エネ

ルギーを減らした後に、太陽光発電などで創エネし、使うエネルギーをゼロにする住宅(ZEH化)を積極的に進められています。

石田 新築住宅では、鉄骨と木造、それぞれの需要にお応えできる構法で、20以上のオリジナルブランドを展開しています。

省エネルギー性を基本性能の一つと位置づけ、2009年からは環境配慮型住宅「グリーンファースト」を提案しています。日当たりのよい設計や樹木を利用した涼冷などはもちろん、窓や壁の断熱性能、LED照明や高効率エアコンなど電力負荷を削減する省エネ設備機器、瓦型太陽電池や燃料電池などによる創エネなど、快適に暮らしながら、従来住宅の50%以上のCO₂を削減できる住宅です。2013年にはネット・ゼロエネルギー・ハウスである「グリーンファースト・ゼロ」に進化しました。2020年までに新築住宅におけるグリーンファースト・ゼロの比率を80%にするという目標を掲げていますが、すでに戸建て全契約数の7割以上を達成しています。

収録日：2017年3月14日

取材後記

住宅からの排出を2050年までにゼロにするというビジョンを業界きって2008年に掲げられた積水ハウス。「住宅は建設してからのほうがお客様とのお付き合いが長いから」という、長期にわたる責任の姿勢に感動しました。それもやはりトップの英断だったとのこと。トップのリーダーシップの大切さを再確認した小西でした！ (小西 雅子)



(いしだ けんいち)

1985年入社。2006年に温暖化防止研究所長、2011年に環境推進部長 兼 温暖化防止研究所長に就任。2016年から現職。長年にわたり、同社の環境部門の取り組みを先頭で指揮する。



(こにし まさこ)

国連の気候変動会議などで国際交渉や、国内の気候変動・エネルギー政策提言に従事。温暖化をめぐる経済動向や、世界の温暖化対策にも精通する。気象予報士として、予測される温暖化の影響に警鐘を鳴らす。